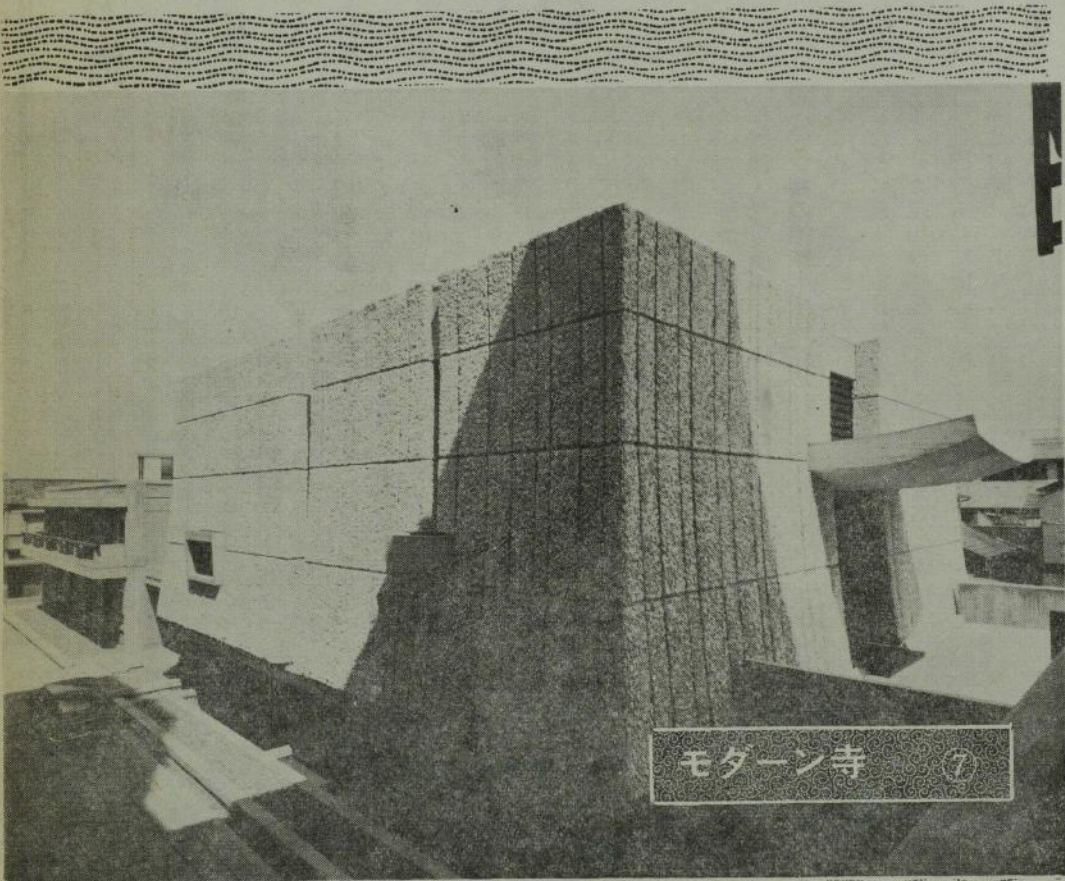


全ヤ

No. 134

4 / 43.

文京区本郷東大赤門前喜福寺



モダン寺

里から寺へ

お寺さんの理想像(6)

語り手 哲学博士 和田聖公氏

花まつりの持ち方

内山 憲 尚

(駒沢大学教授)



花まつりの意義——釈尊

のご降誕の聖日であるということを知らせ、大聖釈尊のご誕生日をみんなでお祝いするというのが花まつりの意義であることはもちろんであるが、若い者はどうかすると仏教は死者を扱うものであるというふうに考えがちであるから、花まつりをできるだけ明るくにぎやかにして、仏教への間違った認識をあらためることに大きな意義がある。

仏教各宗が一堂に会して共通の祝典をあげるところにも一つの有義を持っている。花まつりによって、互に提携融和し、第三者から見ても仏教々団協和の美しい姿を示すこととなるわけである。

花まつりの障害になる問題を二、三とり上げて考えて見たいと思う。

①時期の問題——花まつりは四月八日又は子どもを集める場合は八日を中心とした近い日曜日を選ばれる。ところが戦前は小学校の始業が四月一日であったのが最近では都市で四月六日前後の日から始める学校が多く次第に他もその傾向にある。

そこで子どもへの宣伝や動員に難かしくなってきた。

四月八日ではまだ花の咲かない東北や北海道地方では一月おくれの五月八日を中心に行っている。この点はうまく行く。

②小学校との関係——花まつりが宗教行事であるとの解釈

で、学校側で参加を断ったり校庭使用を認めなくなってくる傾向がある。小学校長が理解があっても教育組合の力の強いところでは便宜を計ってくれないようなところが多い。

戦前のように教科書の国語教材に花まつりがのってればよいが、近頃の教科書には花まつりはおろか仏教的なもの始んどいてまい。

品川区には大井花まつり会というのがあって戦前からやって、小学校児童を招いて毎年やって来たが、四、五年前から小学校が不参加を言って来たので、全部幼児に切り替えて品川区内十の仏教幼稚園・保育所の花まつりにした。

③世相の推移——テレビなど刺激の強いマスコミによって、特に子どもなどが、だんだん花まつりなどに興味を感じなくなつたこと。青年たちがアメリカ思想の感化を受けて旧いものから離れ、

仏教的なものに関心を持たなくなって来たこと。(そのくせ、クリスマスなどにひかれて一般家庭でもクリスマスパーティーをやったりすることを新しいと考えるようになってる。)

今後の花まつりの在り方について考えることは、花まつりを新しい解釈をするということではできないのであるから、花まつりそのものの形を

新しいものを持って行くことである。花まつりと言えば、白象を引っぱり出し、歩きくたぶれて寝ている子どもを抱いて歩くような稚児行列にたよらないで、子どもたちが参加することに意義を感じるような内容を盛り、青年たちがよろこんで出席するような、フォークダンスの花まつり、花まつりパーティーといったものを、花御堂の前でたのしくやって釈尊のご降誕を祝うようなものもあってもよからう。

どうも今までの花まつりの多くは、法衣をつけた僧侶が中心になって四十分も五十分もかかり、しかも一般のわからない読経や儀式をやらなければ花まつりでないと言った考えをもっているのが十年一日の如く続いている。

時代のテンポに合わせて新しい形式の花まつりがほしいものである。あらゆる障害をのりこえて、しかも今の子どもや青年にアピールする花まつりであってほしい。

花まつりをやるのは仏教徒である。すべての仏教々団、あらゆる仏教の会、日校、幼稚園、保育所、仏教寺院、こぞって花まつりをやってもらいたい。そうすることによってのみ花まつりが普及し、花まつりの世に宣伝することができるのである。

「全仏」購読お願い

この機関誌「全仏」は各宗派要路、都道府県仏などの加盟団体、そのほか外部関係に広く配付しております。

誌代 一力年送料とも二四〇円

全日本仏教会

文部省文化局宗務課による「宗教法人の行なう事業調査」も第三年度に入り、大体の傾向がうかがわれる段階に達したので、これまでの経過と集計内容について報告してみよう。(日宗連通信第二号より転載)

調査の趣旨

近年、東大寺観光税問題、銀閣寺住職事件、天理話所問題、生田神社駐車場問題、仁和寺双ヶ岡売却事業等々、宗教法人の経営をめぐる事件・問題が広くマスコミでとりあげられた。その多くは昔日、国家・豪族に維持されていた社寺や、あるいは、最近の社会変動・人口移動により檀家氏子を失った既成社寺が、その経営を維持してゆくうえに、事業を行なう傾向から問題になったものである。

宗教法人法第六条によってもわかる通り、宗教法人は公益事業のみならず、収益事業を行なうことも許されており、それぞれ法の許す範囲で非課税の特典もうけることになっている。しかし、宗教法人法第二条でもわかるとおり、宗教法人は一定の礼拝施設を備え宗教活動を行なっている「団体」であり、その意味で、法のいう意味のうらには、まず「宗教法人」はその前に「宗教団体」であり、かつ「信徒」「同信の徒」によって維持されるものであるということになっている。この人々の信仰活動を支えるために、団体に法人格が付与されるのであって、宗教法人の行なう活動(事業を含む)には、一定の「自律的制約」が課されている。たとえば、不特

特集

宗教法人の行なう

事業調査について(一)

定多数の者を信徒とみなすことや、また、いかなる事業をも宗教法人が行なえるとはいえず、宗教とは、まったく関係のない事業に、法人が直接関与することなどは、わが国のみならず国際的にも常識にあわないとみなされるのは当然である。

宗教法人が直接・間接関与する事業が、やはり信仰活動の周辺にあるものを中心とすることは、一応、常識でおさえられるが、しかしその現実の実態については、よくわからないというのが実情であった。その間、宗教法人の品位にかかわる事業の出現、あるいは公益事業と収益事業の境界に

(ケース・スタディ)に至るまで、実施の内容のすべてを相談し、その了解を得て調査を実施している。

調査の方法

全国十八法人の中から十パーセントの法人を、無作為抽出方法で選び出し、それに調査表を送り、回答を得る方式をとった。第一次調査で、選ばれた宗教法人に、法人の行なう事業と関連事業の有無をたずね、第二次調査(悉皆調査)で、事業ありと答えた法人全部に、事業内容を詳しくたずねるといふ形になった。これに対し、なぜ全国

あるような事業の問題などが統出し、官庁には宗教法人法運営にあたって、宗教法人の事業の現状を知る必要が出、宗教法人側でも、法人運営に当って、適切な運営のため資料がほしいという希望が出て、公私の必要が一致したところから、両者が協力してこの調査を行なうことになった。しかし宗教法人に対する調査であるので、慎重の上には慎重を期し、宗教学関係、学識経験者、宗教団体側代表(阿部龍伝・滝沢清両氏)ならびに都道府県側代表五名よりなる協力者会議を構成し、この協力者に、調査表の内容決定から、実態調査

十八万法人全部に対して調査を行なわないかという疑問も出たが、①予算の制約、②府県側の準備体制の有無などという具体的事情のほかに、③宗教法人の個々の実情は所轄庁である府県が実施すべきであり、④むしろ、この際全国の実情の平均値を早く出したという要請もあり、⑤

調査の経過

サンプリングの方が宗教団体側に余計な疑念を与えないという考慮もあって、この方式にきまつた。

第一年度(昭和四十年)は、宮城・東京・神奈川・石川・愛知・大阪・兵庫・広島・愛媛・熊本の十都府県で調査が行なわれたが、事業の多い大都市がこの中であって都市的傾向が目立った。第二年度(昭和四十一年)には、都市・農村という地域的立場からみれば、ほぼ全国平均的なものを出すいみで、北海道・山形・千葉・新潟・長野・京都・奈良・岡山・高知(五月号へ続く)

里から寺へ

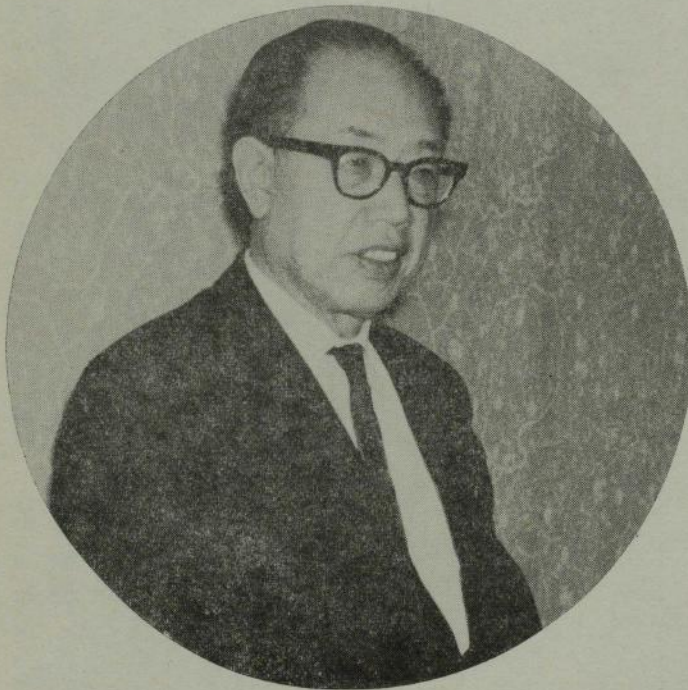
(六)

聞き手前白

「里から寺へ」は各方面から好評をうけており、すでに笠原一男博士、加藤弁三郎先生、作家の平林たい子さんとつづけてきましたが、今回は仏教の篤信家でながくアメリカでキリスト教をふかく研究された和田聖公先生に仏教界の現状を忌憚なく語っていただきました。

聞き手 伊藤 勝 淳

(全日本仏教会組織局長)



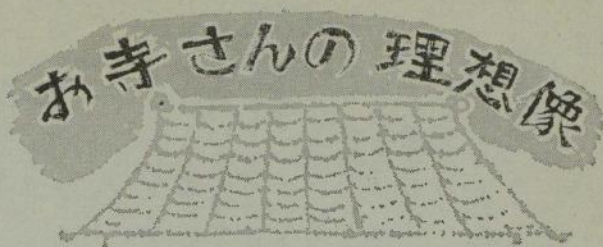
先生には、この度、全仏の組織専門委員会の副委員長というお役をお願いいたしました。今後、日本仏教界のために御尽力をいただくわけでございますが、先生は仏教徒で、アメリカに長くいらっしゃり、また、アメリカの神学校にお入りになられ、キリスト教の神学のご研究をなされ、そして、又たいまは日本にいらっしゃるわけでございます。アメリカに長くいらっしゃり、キリスト教の神学をお学びになられました先生が、お帰りになれまして、日本のいまの仏教界に対してどういうふうにお感じになりますか、それからどうしていくべきであるということ、それからいろいろの点について、御意見を拝聴いたし、またご指導もいただきたいと思う次第でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

和田 きょうは、何にもわからないわたくしが大きな責任をいただいでほんとうに恐縮しております。どうぞ、走りづかいだけでもさせていただきたいと思いません。日本に帰って来て、仏教界に感じたことは、世評によりますと、仏教が後退

したとか、力が弱まったということですが、しかし、わたくしのみた日本仏教というものは、後退もしていなければ、力も弱まったとはみないんです。ということとは、アメリカのキリスト教が、いまかかえている困難な問題、日本仏教が、いま直面しているような問題とはほとんど共通点があって、そういう共通点のところでは、なごめたら仏教もキリスト教も同じ問題をはらんでおるので、仏教だけが後退したとか、力が弱まったとは決して思っていないんです。ただ、社会が変わってきたのだと思う。それは、日本の社会も、アメリカの社会も、大きな変わり方をしてきたと思うんです。そういう変わった社会の中で、仏教のとるべき姿勢とか、キリスト教のとるべき姿勢というものも、まだはっきりと出ていないのだと思う。だから一面においては、仏教会なりキリスト教が混乱しているということはいえると思うんです。それじゃ、どういうところが後退したとか、力が弱まったといわれているのかというと、社会に対して何にも指導的な原理を掲げていないのではないかと。いろいろなことをいっておるが、日本仏教という全体の立場からみたら日本仏教が社会に何をしておるか、どういう影響を与えておるか——いろいろな困難な問題がたくさんあるのに、仏教界として、一体、社会に何をいって聞かされているかというような声を聞きますが、これは、アメリカでも、アメリカの社会の人がキリスト教に対して、キリスト教は何にをしているか、われわれはこんなに苦しんでいるのにどうしてわれわれを救ってくれないか、という声と共通しておりますね。

そこで具体的にいえることは、昨年十

語り手



理学・神学博士

和田 聖 公

連載 在家対談

月皎卓でお話させていただいたときもそうでありますが、全部の仏教界の各派が大団結しなければならぬんだというところは、ほとんど議論の余地がない。その点は確かにその方向にきたんです。ところが、どうして大団結しなければならぬのかという問題になったときに、各派がそれぞれの立場でいうのか、あるいは全仏という組織の名で社会に向かって大きな声でいうのか、という問題ですね。そうすると、わたくしが、社会の間として日本の仏教にいえろことは、どういう姿勢を全仏がしておるか、という姿勢の問題になると思うんです。この点は、どういふ姿勢をもって社会にみせるかということですが、いかがでしょう。

——おっしゃる通りでございます。アメリカの神学における悩みも、また、日本の仏教における悩みも同じだろうと思います。これからこまかいことをいろいろ先生におうかがいしたいと思いが、先生が仏教に関心をもたれたというのは、なにか動機があったことですか。

和田 わたくしは、もともと仏教徒の生まれで、骨のズイまで生まれたときから仏教を育を受けているわけです。だから過去において、別にこういうことで仏教に目覚めたというものはなかったんです。ただ、アメリカのキリスト教の大学に入ってみて、キリスト教というものをみつけているうちに、だんだん突っこんでいくうちに、仏教徒の中に入らざるを得ないというところに到達した。つまり、キリスト教をどこまでも追及していくうちに、わたくしのもとに仏教にきたということなんです。

アメリカに行く前は、仏教徒だといひましたも、わたくしの家は石川県で、北

陸門徒の家で生まれたから仏教徒だといふだけで、それじゃ、お前の仏教思想・精神があるかといわれたときに、なかつたんです。ところがアメリカに行き、キリスト教というものをながめてみましたときに——キリスト教が悪いとかいけないういというじゃないんです。キリスト教にはキリスト教の歴史的な理論もありますし、教義も立派なものがあります。もともと仏教徒でありますから、キリスト教の学校に入ってみて、研究を重ねていくうちに、どうしても仏教徒なんだという自覚を深めたのです。それじゃ、お前は、仏教に対してどういふ思想あるいは哲学を持っているか、キリスト教の学校に入って、そこからどうして仏教というものに戻ってきたかという質問をいただければ、すなおにいえろことは、やはり、仏教の中にもありますところの自然法爾というか、すなおに自然をみていくという、そして根本的に人間に戻って、自然から出発しなければならぬかという、あの釈迦の教えというものを——もしも哲学というものを入れれば、釈迦の人間哲学というものに戻らざるを得なかつたんだというふうには、アメリカでキリスト教の学校に入って、学位も取ったわたくしがしめじみ感じたのはそこなんです。

—— わたくしも、以前から、キリスト教の神学を研究したらその結末というものは、やはり、仏教の高遠な思想というものに入らなければならぬというふうなことも聞き、また、外人がそのために日本の仏教の研究に來日されるといふことも聞きました。先生にお話をおうかがいいたしまして、ますます、日本の仏教というものは実にすばらしいものであ

る、ということをしめじみ感じたわけですね。それと同時に、そういう立派な仏教を持ちながら、わたくしどもはその中におりましてやはり感ずることですが、現在の日本の仏教界はこのままでいいの、あるいはどうしたらいいの、かということ、仏教界の現状をどう感じているか、いかがでございますか。

和田 問題はそこなんです。そこで、どこのお寺の相統者でもありませんので、在家の人間として仏教界にいたいことがあるのです。それは、三つに分けて申し上げなければなりません。現在の社会は非常に混乱している。全体の仏教がどういふ姿勢で、現在の混乱している社会なり、あるいは、いろいろと困惑している人々の気持を引ばって行くのか、ということ、もう一つは社会から超越した姿で、仏教というものは、明日・明後日の世界を指さしながらそこまで来いといつて行くものか、あるいはそうではなくて、その社会の中に仏教がとび込んで、人々とともに苦悩を分かち合っているのか……そこが問題だし、もし、わたくしをしていわしめれば、仏教がどういふ態度をとってほしいか、これは在家の人間としての注文であります。

まず第一にいえろことは、いまの人が、どうしてこういふふうな社会混乱を起し、あるいは、個人対個人の相克を起し、国家間においてそういう相克を起しておるかという根本の問題について、仏教の立場からこうだといふ一つの回答を示すべきときがきたんじゃないですか。

ところが各派においては、それぞれの

和田聖公さん

略歴

本名を和田成康といい、通称を聖公という。明治四十二年一月石川県の山中温泉で生れた。昭和三十三年六月、サンフランシスコシンプソン神学大学卒業、昭和三十六年六月、セダリア神学大学院を卒業し、哲学博士号を授与、スプリングフォール総合大学院で神学博士号、昭和四十年四月、同大学精神医学科において「人体精神医学の人体的影響及び薬草の反応による実験」論文により理学博士号を授与。昭和三十九年五月より北米カリフォルニア州政府より宗教活動の認可を受け、仏教運動を行なってきた。現在、来日し、仏教興隆のため活動している。

教典なり、教派においてお教えになるものをもっていきますか。仏教全体としてそういうものが——示されていないのではないだろうか——はっきりといていない。個人的な混乱と社会的混乱が現代も——とも大きくとり上げられている。だとすれば、仏教全体の名によって、個人的にも社会的にもこういうふうにしていかなければならぬ。それを示すべきだと思います。そこで一体どういふものを示さなければならぬかといえ、やはり、人間性の低下したこの時代に、人間性を高めていくところの姿勢を示さなければならぬ。その人間性を高めていくのにはどうするか。精神問題を疎外して人間性は高くなるものでない。——いまままで物質文明が高度に進歩するとあまりに物質だけを強調しすぎてしまつて、精神面がおろそかになつたでありまして、う。——精神面を仏教がはっきりと示し、且つ宗教界に関心をもちようにする。これとないと、仏教全体が次第に社会から疎外される。そこまで極論はいえないが、その傾向はたしかに現代社会にあるのです。

と話し合った問題を先生に申し上げるのですが、その方のいうのは、パラウトのスタンフォード大学で学生がライフル銃を持ち、通行人を八人撃ち殺したんです。それは、スタンフォード大学の非常に優秀な教授のご子息で、当時、年令は十九才です。大変常識もあり、教養もあるその子が、外を歩く、何もその子に關係のない人の命をうばつた。しかも、一人ならず、八人、九人の命をうばつた。その子供に警察当局がたずねてみたら、スズメを撃つつもりで撃つたのが、間違つて通行人を撃つた。血を吹き出して倒れる姿を見て、おもしろくなつて次々と人を撃ち殺した。ただそれだけの単純な理由で人を殺して、しかもその子供は、常識も知性も教養もあるのに、何らそこに罪悪感を持たない。

もう一つは、サンフランシスコで、日曜になると酒屋に五人組の青少年が入つて、ピストルを持ち、酒屋の現金を奪う。日曜ごとに徒党を組んで現金を奪つた理由がどうしてもわからなかった。サンフランシスコの警察が、日曜に限つてこういうことをやるのは、何か。日曜にながりのあるところに入出入りしているのではないかというので、各教会に網の目を張つたら、ある教会に入入りしている四、五人の青少年が酒屋に入つて、おどかして現金を奪つた。そうして、教会に行つてお詫びをすませた。間もなくあげられて、警察当局が聞いたら、神さまの前で懺悔をしたら罪は許されるということだから、日曜に酒屋に入つて現金を奪つたんだというふうに答えた、というのです。もちろん、懺悔をすれば罪は許されるけれども、毎週々々懺悔して泥棒に入る。懺悔して、泥棒に入つて、懺悔して、……これでは許されるかどうかという分別がこの子供たちにはない。それから、シカゴで、ある大きな病院に強盗が入つて、これも殺さなくてもいいのに多数の看護婦やいろんな人を殺して、金庫の金を取つた。

もう一つは、やはりこれも問題になつたのですが、アメリカで、考人ホームが完備し、六十五才になりますと最低七十五ドル、最高百十五ドルまでの手当を毎月もらつて、老人ホームもいたれり尽くせりの完備した施設を持っているわけです。ですから何らの物質上の不安がないのに、不思議なことに、六十五才で入つて、七十才位になると、みんな神経衰弱になる。ある人は自殺もする。反面からいえば、完備した施設に養われておるんだから、安心して喜んでいなければならぬのに、神経衰弱になつて、しまいに自殺する人がある、ということと宗教界が一体、こういう人をどういふふうに導いたらいいか、この人たちをどう理解したらいいか、ということを大きな問題にしたのです。

そのときにわたくしが申し上げたのは、結局、物質的な榮養は、科学の力によつて十分だからだに付けたのだけれども、精神的な榮養を吸収する力がからだにないのと、そういうふうな精神的な榮養を与えるものをだんだんに失つてきた。ここに問題がある。いかに物質的に完備し、また、アメリカは、日本と違って国家が保護しているのにこういう人が多くなる。そこにわたくしは、キリスト教の今日の大きな悩みもあるのだと思う。ひるがえつて日本も同じことで、いまの日本人が、やはり、精神的な榮養を取ることがだんだん忘れてきた。物質的な榮養は確かに取つてはいる。ところが、精神医としていえることは、榮養というものは、一日に一回食べたなら十日間からは充分はたらくことができる。このようにつくられていない。朝晩に、水も飲み、食べものを食べる。だから、からだに榮養が充分に入つてゆくのです。

(五月号に続く)

—御贈答に//記念品に//布教用に//—

◎全国観光温泉地1泊旅行に御招待
又は豪華なお品を御贈呈(輸入商品1口5万円毎)残れなく

◎日用文化用品を5品御贈呈(輸入商品1口3万円毎)残れなく

弊社取扱商品(印度・セイロン製)直輸入品
線香・白蓮(香・製品)・沈香・民芸品(木彫・象牙・真鍮・其ノ他)等

お問合せは
全国総発売元

梅金商店
(法衣・莊厳・仏具)
贈答用・記念品

名古屋市中区岩井通り4の2 TEL名古屋(052)241-0901・1920
協賛 印度大使館・セイロン大使館
指定推薦 全日本仏教会・輸入元 かねばみ商事貿易部
◎詳細は御一顧下さればカタログを御送附します

長い歴史の中で育てあげられてきた、いろいろの宗教行事の中で、甘茶と白象に象徴された「花まつり」は毎年四月から五月にかけて全国各地津々浦々で盛んに行なわれているが、特に東京都内各仏教会、京都、孝道教団、仏教関係の各学校、幼稚園、保育園等地域、職域など本年も盛大に行なわれる予定であるが、昨年十万人帯結集運動に成功した岐阜県仏教会では、次のような新しい試みで実施されることになったのでその内容を紹介することにした。

なお、全仏では、各地で行なわれる花まつりの詳しい記録を送ってほしいと強く

花まつりを盛んにしよう

望んでいる。

岐阜県仏の

百万人の花まつり

岐阜県名宝展

- ▽とき 四月二日(火)～七日(日)
- ▽ところ 丸物百貨店 八階文化ホール
- ▽入場料 大人百円 中学生以下五十円
- ▽展示品 工芸—金銅獅子唐草文鉢(国宝)ほか二十口
- 絵画—親鸞聖人御絵伝(県重)ほか二十幅
- 彫刻—木造四天王立像(県重)ほか二十軀

書蹟—典籍—徳川家康日課念

仏ほか十幅

花まつりのうた発表会

▽とき 五月上旬

▽ところ 岐阜市民会館

市中パレード

▽とき 四月六日(土)

▽コース 午前中—岐阜市を四地区に分けて、各地区別にパレードを行なう。

午後一時—美江寺観音に集合し、市民センター北側、金公園までパレード

▽参加団体 幼稚園児・ボイスカウト

岐阜放送
後援 岐阜県・岐阜市・岐阜県・市教育委員会・全日本仏教会・花まつり奉賛会

孝道山 花まつり

横浜市孝道教団孝道山では、四月六日花山車パレード(第一回午前十一時野毛

日本仏教文化会議

議長に 宮本正尊 博士

去る三月五日銀座三原橋「リッツ」で全仏文化専門委員会が開催され、正副委員長の選出、日本仏教文化会議の正副議長を推薦、同議長宮本正尊博士の内諾を得た。尚、各々次の通り。

(敬称略)

文化専門委員会

- 委員長 真 溪 義 貫
- 副委員長 伊 藤 道 機
- 摩 尼 清 之

日本仏教文化会議

- 議長 官 本 正 尊
- 副議長 西 義 雄
- 久保田 正 文
- 伊 藤 道 機
- 早 島 鏡 正
- 鎌 田 茂 雄
- 金 岡 秀 友
- 佐 伯 真 光
- 田 村 芳 朗
- 真 溪 義 貫
- 摩 尼 清 之

運営委員会

常任運営委員

- 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

山出發・第二回午後三時神橋校前出發)を皮切に、七日は、前夜祭として「仲宗根美樹とシヨウ」を、八日には、灌仏会を行なう。尚、孝道教団では、当日の花まつりの写真コンクールを次の要領で募集する。撮影日—四月六・七・八日、べ切—四月三十日、展示会—五月十日～二十二日まで松屋横浜店

業計画等につき、伊東文化部長より説明された。出席委員次の通り。(順不同敬称略)伊藤道機・真溪義貫・摩尼清之・戸田浩暁・岩堀至道・西義雄・批祀田義正・叢良宏・島田喜久子・勝又俊教・田村芳朗・三輪美津子・榊原掃逸・内山憲尚

全仏事務局より稲田事務局長、桜井文化、日野総務局長、伊東文化部長、服部書記が出席した。全仏組織専門委員会開催 二月二十八日千駄谷千代原で開催され次のことを決定した。

- 委員長 鈴木敏範
- 副委員長 神野真一
- 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
- 委員 古屋道雄
- 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
- 委員 北之内真竜
- 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
- 委員 白川良純
- 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
- 委員 竹田敏道
- 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
- 委員 西本栞作

同委員会の諮問事項である「岡山大会の基本方針」「檀信徒部の全国組織化」

尚、当日全仏文化局の昭和四十三年度事

「非仏教活動対策機関設置」に
ついては各委員が、次回までに
具体策を持ちよることになっ
た。出席委員次の通り。

古川海祥・和田聖公・近藤英雄
新美孝道・神野真一・鈴木敏範
熊谷健・美濃部薫一・竹田敏道
熊野竜夫(代)・船口暉子・白
川良純 全仏事務局より稲田事
務総長、伊藤組織局長、柳組織
部長、福井主事が出席した。

全仏国際専門委員会開催

三月九日午後一時より「築地
サポイ」において開催された同
委員会の審議要旨次の通り。

先ず正副委員長の互選が行な
われ、委員長に中山理々、副委
員長に藤井真水、岡野貴美子両
氏が選ばれた。

事業計画(全仏事業計画)一三
月号既報については、「訪日
仏教徒に対する日本仏教ガイド

書の作成の研究」の件に対し活
発に意見が出され、早急に小委
員会を作り、基本的な研究を実
施すべきであるということに一
致した。

その他、ベトナム救援活動を
すべしという要望等もあった
が、このことについては、すで
に昭和四十一年二年度にわたり
全仏において実施しており、も
し実施するとすれば、事務局
で、よくその方法を検討して機
関にはかることとした。

尚、一週前にユネスコ会議
出席のため来日していたブラジ
ル仏教会副会長リチード・マリ
オ・ゴンサルベス氏より、ブラ
ジルの仏教事情についての講演
があった。氏はサンパウロ大学
の東洋史の教授であり、若冠二
十七才の新進学者である。日本
語がうまく、質問にも明快に答

え、来会者と和気あいあいのう
ちに散会した。当日の出席委員
次の通り、

中山理々 村野宣忠 西村輝成
壬生照順 井坂信興 今井大彰
細川量雄 寺田康順 阿部竜文
岡野貴美子 長田順海 桜井栄
章 全仏事務局より熊谷国際、
日野総務局長、近藤国際部長、
真柄主事が出席した。

宗派・県仏人事(就任)

おわび——三月号のこの欄で、
「曹洞宗管長岩本勝俊」とある
のは「曹洞宗管長佐藤泰舜」の
あやまりにつき、訂正し、つづ
しんでおわび申し上げます

曹洞宗

曹洞宗 管長 佐藤 泰舜
大本山永平寺貫首
大本山總持寺貫首 岩本 勝俊
新義真言宗(三月三日付)

宗務総長 岩堀 至道
総務部長 鈴木 祐朋
教務 橘 純雄
法務 星 慶岳
島根県仏教会
会長 齋藤 竜童

新所在地—島根県大田市久利町
久利八六一(竜昌寺内)

全仏人事

書記(文化局) 服部光順(三月一日
付) 任 命
組織専門委員 竹田敏道(二月二十九
日付委嘱)
美濃部薫一(〃)

★梵人会の

昭和四十三年度行事計画
梵人会(主幹河合智海・金沢
市東山二丁目十四・玄閤寺内)
では、次のように昭和四十三年
度の行事計画を決定した。
四月 灌仏会(花まつり)・講
演会

五月 ウェサーカ 国際仏陀の
日として厳粛に行ない、大
衆に向って画期的大運動を
すすめたい。
六月 大衆のための仏教講座
講座回数十回(十二回
古刹巡拝 日帰り行程にし
て県内外の有縁寺院の巡
拜、実行担当は仏文委員)

七月 出版の計画 梵声・梵人
会機関誌の巻頭言及びカ
レンダー解説を単行本にし
て出版する。
全仏関係 第十六回全日本

一月 二月・三月・省略

八月 暁天講座 講座の内容は
前年度にならう。専任委員
をおく。
九月 梵人会々員の交歓の日
お互いが息災であることを
喜び合い、同時に親睦を深
めるために秋の彼岸を機会
に行なう。

十月 全日本仏教徒会議参加者
の勧誘会員及び会員でなく
とも参加するよう勧誘。
十一月 梵人会十七周年記念行
事 村沢忌(創立者で故村
沢義二郎氏)と併合して行
ないたい。講演会と座談会
十二月 成道会 この場で歳末
助け合い募金を行なう。

仏教はヨガから発足した

ヨガと仏教

ヨガの行法を習得すれば
仏教の教えは自から実行される

ヨガの躰体呼吸法

自然良能作用の増強・常に健康
自己防衛力の増強! 常に安全

生きてる

般若心経の解説

眼に飛び込んでくる般若心経の内容!
無限大に展開する生活の営み

定価 550円

価 250円
千 50円

価 250円
千 50円

全国書店発売中 書店品切れの際は版元
在庫につき取次店から取寄せるように指示して下さい

東京都中野区江原町2丁目1番7号
株式会社 霞ヶ関書房 振替東京 26254
電話 (951)3407

寺のお紙の表紙

曹洞宗喜福寺
の本堂と庫裡で
ある。東京大学
赤門前、本郷通
からわずか入っ

り、太陽の光を「家」の中に
満たさせ、音がそれを美化す
る役目を果たしている。本堂内
での、読経・鐘木魚等の音響効
果は最大限にいかされている。

音のハーモニーで美化

従って読経
は音楽的で、
時間・空間
を超越した
ような響き
をもち、信
仰心をより高めている。東
京都文京区本郷五一二九一十
三住職今井大彰師



ところにあるモ
ダンな建築物。
本堂は、単に近
代的建築という
ことでなくチベ
ットの山頂にみられる、寺の
イメージ、いわばトラディシ
ョンのようなものが根底にあ

三住職今井大彰師